

日光で豊かな自然と触れ合おう！

小島紀彦 山口正明

日 時：2018 年 7 月 1 日（日）～2 日（月）、天気：曇り～晴れ

場 所：日光植物園、日光自然博物館、さかなと森の観察園、戦場ヶ原自然研究路

参加者：25 名（東葛 19 名、協議会他 6 名）

日光植物園は日本の高山ならびに温帯から亜寒帯に生育する主に冷温帯に属する植物が植わっており、自然林を思わせる景観になっている。約 10ha の広さで、マップの石順に添って園内を観察。入口近くにシキンカラマツの紫色の萼片が蕾の状態だった。初めにウメドキの紫の花を見る。葉の裏に細かな毛があるが、手触りを誰かが“貴婦人のやわ肌に似る”との話に、知っているのか？と揶揄の声などワイワイと言いながら歩いた。この時期はロックガーデン、ボックガーデンを主体に 84 種の花が見られるとの開花情報。今年は開花が二週間ほど早くなっている感じであった。この園はサクラ属、ツツジ属、カエデ属の植物は多くの種類があり、葉の形で種類が分かるカエデについては、色々な種類を見て廻った。園内の奥に大谷川に沿って急な流れに削られた大きな岩でできた含満ヶ淵という景観の名所の場所にも寄った。木本のシモツケ、ホザキシモツケは分かっても、草本のシモツケソウ、アカバナシモツケソウ、オニシモツケなどや園芸種のキョウガノコなど実物での見わけは難しかった。他ではなかなか見られないハナキササゲの花を見た。アワブキの花を見て、同じ種のミヤマノハソの花も見られたし、探した挙句に小さな可憐なバイカツツジの花も見られた。

「さかなと森の観察園」では川魚のサケ、マス関連の増養殖の研究機関であるが、園内に大きな水槽があり、餌をまきながら園内を観察した。中禅寺湖での代表的な魚のヒメマスから幻の魚といわれるイトウや体の大きなニジマスなど、さらにキャビアを採取するチョウザメなどを見た。園を出て竜頭の滝を見た後は、宿泊先の湯元温泉「奥日光パークロッジ深山」に到着。食事まで湯元ビジターセンターを訪問し、湖畔に出て静寂な湯の湖を見てから宿に戻った。宿は借り切りで夕食をしながらの懇親会になり、一日の汗を風呂で流した後の生ビールはおいしかった。8 時からは屋外に出ての星空観察会を実施。強烈に遠くまで届くレーザーポインターを使って、白鳥座のデネブ、こと座のベガ、わし座のアルタイルを結んだ夏の大きな三角形。南の空にはさそり座の赤いアンタレスの星も光っており、北はおおぐま座の北斗七星から北極星、木星も見られた。今年の研修会と同様に今年もよく見られた。

二日目は、湯ノ湖の西側湖畔の道を歩き、樹木と野草に囲まれ、湖畔を眺めながらの気持ちのいい道。約 2km の道ですが、見どころにあふれた道で、その上、時々修学旅行？の小学生のグループに道を譲ったりしたため、予定より 30 分も時間を要した。湯滝は 70m にわたり岩面を水が洗うように落ちてくる滝で、豪快そのものでした。湯滝で休憩後は戦場ヶ原自然研究路に入っての観察会が始まる。ウワバミソウ、クルバマソウ、エンレイソウ、トリアシショウマ、イチヤクソウ、ノブキ、フクオウソウなどが見られた。泉門池まで 1.5km の道は樹林帯です。湿原の開けた場所では、天気がいい為か、視野が広がり目の前に男体山が、左側には遠くに大真名子山、小真名子山、その左に太郎山、山王帽子山と山が連なっていた。イブキトラノオ、ハクサンフウロ、ホザキシモツケ、ワタスゲを見る。カッコウが鳴いている。赤沼にて昼食とトイレ休憩の後は、竜頭の滝までの歩行。土の道になっており、今までと雰囲気が違う。樹木も湯の湖から戦場ヶ原の上部にかけてはウラジロモミ、コメツガなど針葉樹と下草はミヤコザサであったが、赤沼から竜頭の滝あたりではミズナラ林やカラマツ林が広がっている。黄色い花のハナニガナ、白色のシロバナニガナが見られた。鹿の防止柵を抜けると竜頭の滝の上に出る。道路の法面の緑化や砂防用に植栽されたものだろう、イタチハギが道の両側に黒い穂状の花を一杯に咲かせていた。天気に恵まれ、皆さんの協力もあって、無事に研修会を予定通り終えられた。